

J R 総連通信

2023年3月3日 No.1623

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

2023JR総連春闘

No. 5

J R 総連各単組の交渉状況

JR北海道労組は2月27日、第4回交渉（職場環境改善関係）をおこない、2項目の前進回答を確認しましたが、2項目にとどまっており、その他の項目について強く再考を求めています。

JR東労組は3月2日、第1回交渉をおこない、要求の趣旨説明として「グループで働く組合員・社員は安全第一で職場で奮闘し、家族も支え、並々ならぬ努力の積み上げが黒字という結果として表れている」ことなどを訴え、要求満額での回答を強く求めました。一方会社は、「足元の状況を踏まえつつ、中長期的な動向も勘案して慎重な判断が必要である」との姿勢を示しています。

JR東海労は3月1日、第3回交渉をおこない、「組合員・社員の生活は苦しくなっている。会社はベア1万円、夏季手当3.5カ月を支払える体力はある」と訴えました。これに対して会社は「黒字になったとはいえ、厳しい状況に変わりはない」との姿勢を示しています。

JR西労は2月22日、第3回交渉をおこない、退職金制度やエリア手当・扶養手当・通勤手当などの改善を求めました。しかし、会社は「現行の取扱いを変える考えはない」などとする回答に終始しました。

JR貨物労組は3月1日、第2回交渉で要求の根拠について説明し、「組合員・社員の生活は逼迫している。事業計画等を担う組合員に更なる奮闘を求めるのであれば、会社はその奮闘に報いる責務がある」と、ベアで会社の姿勢を示すべきと求めました。これに対し会社は「物価上昇は認識しているが、収入はここ数年にない苦しい状況である」との姿勢を示しています。

JR各社は交渉において、コロナ禍以前の経営状況に戻っていないことなど、賃上げに否定的な理由を繰り返していますが、JR上場4社の第3四半期決算は増収増益となり、通期決算も4社とも黒字を見込んでいます！

今こそJR経営陣は組合員の切実な声に基づいた要求に応えるべきである！

「連帯・共闘」を強化し、2023JR総連春闘勝利にむけてたたかい抜こう！